

卒業後を見据えた生活への主体者意識を育む授業実践 ～「人生の主人公はわたし」～

岩本 悠希 川井 優子 佐藤 弘康 末利 容子 高野 裕美
高橋 絢子 田島 僚大 橋都 由美子 松本 晃 吉澤 洋人 渡邊 聡
池田 一成 奥住 秀之 村山 拓（東京学芸大学）

I はじめに

高等部では「主体的・協働的な学びを育む支援」という全校テーマのもと、これまで ICT を活用した学習活動の充実、主体的に参加する個別教育計画、主体者意識を高めるための自己評価の在り方を中心に研究を進めてきた。今年度は4年間の研究のまとめとして、高等部が社会生活への橋渡しとなる段階であることを鑑み、卒業後の生活への主体者意識の育成を目指した授業実践を重ねてきた。

以下、過去3ヶ年の研究概要、今年度の高等部の研究と授業実践について述べ、今年度の高等部としてのテーマである「卒業後を見据えた生活への主体者意識を育む授業実践～「人生の主人公はわたし」～」について考察する。

II 過去3ヶ年の研究概要

高等部では年度ごとにテーマを設けて研究を進めてきた。ここに、過去3ヶ年の研究テーマと研究成果を述べる。また、昨年度の研究を継続した検証結果も記す。

1. 平成27年度の研究の成果

1) 研究テーマ

主体的な進路選択につなげる「進路の学習」

2) 研究成果

- ① 自分の進路を決定するために必要な知識を得るとともに、自ら考え、選択する機会を取り入れた活動は主体的な学びにつながる。
- ② 友達同士で話し合うことで、自分一人では解決できない課題に対応したり、お互いをより深く理解したりする活動は協働的な学びにつながる。

2. 平成28年度の研究の成果

1) 研究テーマ

本人参画型の個別教育計画システムを活かした主体的・協働的な授業を求めて

2) 研究成果

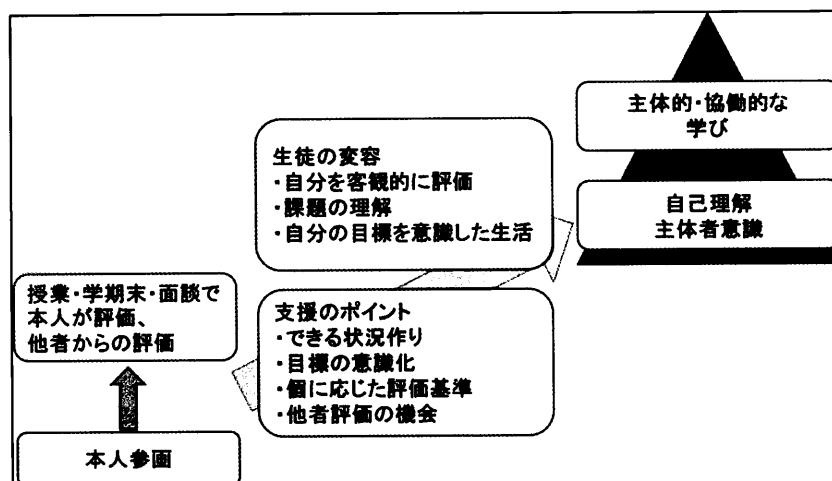


図1 本人参画による主体者意識の芽生えのプロセス

生徒自身に課題意識と主体者意識を持たせるために、個別教育計画の評価場面に生徒を参加させることを検討した。その中で、個別教育計画の評価場面に生徒を参加させることで、生徒の課題理解が深まり、どの授業や場面においても積極的に自らの課題に向き合う姿が確認されるようになった。また生徒の主体者意識を高めるためのプロセス及び評価場面における支援のポイント等を明らかにした。

3. 平成 29 年度の研究成果

1) 研究テーマ

高等部における主体者意識を高めるための自己評価の在り方と授業作り
～作業学習における自己評価を中心として～

2) 研究成果

(1) 作業日誌の改訂

ルーブリック評価法を活用し、作業学習の作業日誌を作成した（表1）。

表1 作業日誌の一部

評価項目	4	3	2	1	先生
あいさつ・返事	元気よくあいさつと返事ができた。	あいさつと返事はしたが、声が小さかったりした。	先生に言われてあいさつや返事をした。	あいさつや返事をしなかった。	

(2) 作業学習における自己評価でわかったこと

- ① 評価基準を統一するためにルーブリック評価を用い、作成した評価表の有効性が確かめられた。
- ② 中程度の障害のある生徒には、自己評価をするときに教員が介入することで、より正確な自己評価をさせることができ、自己理解をより促すことができる可能性がある。
- ③ ルーブリック評価表により生徒が目標とする行動がわかりやすくなる。
- ④ 実際の評価場面は、少人数のグループで行うことにより、効率的に行うことができる。

- ⑤ 自己評価を的確にできることは、自己理解を促し、主体者意識を高めることができると考えられる。

4. 昨年度の研究の検証

昨年度作成したルーブリック評価表を作業学習で使用し、自己評価の正当性の検証を行った。

1) 生徒の自己評価と教員の評価の一致率

生徒の自己評価と教員の評価がどの程度一致しているのかを、作業学習の作業日誌をもとに、検証した。表2は生徒Aの作業日誌の評価表の一部である。項目ごとに生徒の自己評価と教員評価が一致した項目を数え、その数を全体の項目の数で除した数字を一致率とした。

表2 生徒Aの自己評価と教員の評価の一例

評価項目	4	3	2	1	先生
あいさつ・へんじをする。 (挨拶・返事)	大きなこえで、 あいさつやへんじをした。	ちょっと だった。	先生にいわれて、あいさつやへんじをした。	あいさつやへんじをしなかった。	4
「できました」・ 「おしえてください」をいう。 (報告・質問)	すぐに「できました」や「おしえてください」がいった。	ちょっと だった。	先生にいわれて、いった。	いえなかった。	3
まちがえないで作業をする。 (指示理解)	先生のせつめいをさいごまできいて、まちがえないでできた。	ちょっと サンダーのかけかたをまちがえた。	先生のせつめいをきいていなくて、ちゅういされた。	先生のせつめいをきかないで、かってなことをした。	3
よそみ・おしゃべりをしない。ぼーっとしない。 (意欲・集中)	よそみやおしゃべりをしないで作業をした。	ちょっと があった。	よそみ・おしゃべり・ぼーっとしていたことを、先生にちゅういされた。	作業をさいごまでしなかった。	4

上記の評価表の場合、評価項目のうち（挨拶・返事）（指示理解）（意欲・集中）は生徒の自己評価と教員の評価の数字が同じであるが、（報告・質問）の項目では異なっている。この場合、生徒の自己評価と教員評価が一致した項目数の3を全体の項目数の4で除した $3/4=75\%$ が一致率となる。

今年度は、4月から12月における作業学習（陶工班、木工班、農耕班）において生徒の自己評価と教員の評価の一致率を計算した。

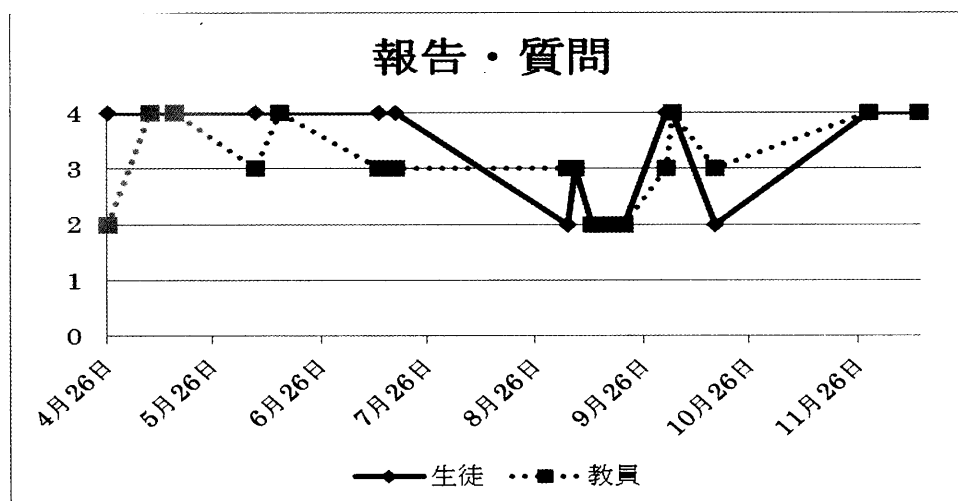


図2 生徒Bの「報告・質問」の項の自己評価及び教員の評価の変化

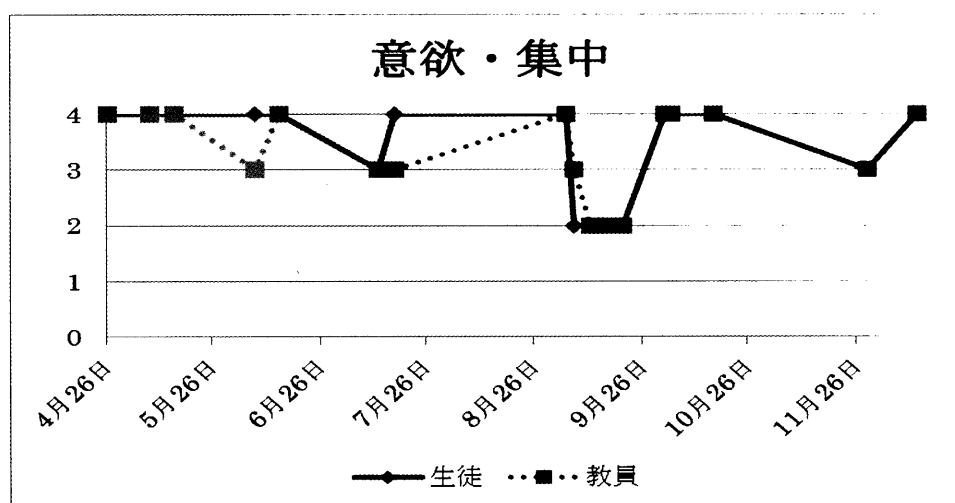


図3 生徒Bの「意欲・集中」の評価項目の自己評価及び教員の評価の変化

図2と図3は生徒Bの「報告・質問」「意欲・集中」の評価項目の自己評価と教員の評価の変化を表わしたものである。年度当初から夏季休業前までは生徒の評価が高めなのに対し、教員の評価は、それよりも1～2段階低くなっている。回数を重ねるにつれ、生徒の自己理解が進み、生徒と教員の評価にずれが小さくなったことがわかる。

このような評価の一致率の計算を、3つの作業班にまたがる軽度と中度のすべての生徒に当てはめた。その結果は以下の通りである。

表3 作業学習における生徒の自己評価と教員の評価の一致率

平均		
軽度	90.8%	(昨年度 89.2%)
N = 8		
中度	83.6%	(昨年度 82.7%)
N = 12		

1. 研究の目的

- 1) 「主体的・協働的な学び」について改めて検討し、授業実践を行う。
- 2) 高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントを作成する。

2. 研究方法

- 1) 「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントを活用し、高等部の教員が各々研究授業を行う。その後、授業研究会を持ち、協議をする。
- 2) 研究授業をもとに、高等部段階で大切にすべき「主体的・協働的な学びを育む授業」について協議をする。また、「主体的・協働的な学びを育む支援」によって見えてきた生徒の姿をまとめる。
- 3) 協議をもとに、高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントを整理し、まとめる。

3. 高等部が考える主体的・協働的な学び

授業実践を重ねる中で、高等部として「主体者意識」「主体的」「協働的」の語の定義を協議し、以下のようにまとめた。

1) 主体的な学び

目標に対する主体者意識を持ち、自分自身の暮らし方、さらには生き方を自ら考え、判断し、行動したりする学び。

【主体者意識】とは…

「こんな大人になりたい。これができるようになりたい。だからこれがんばる。」という、自立した生活に向けての意欲、生活の主体者として生きて行く素地のこと。

自らの学びを振り返り、それを次につなげる学び。

2) 協働的な学び

他者との関わりを通して、客観的な評価を受けることで新たな気づきを得たり、自分の考えを再構築したりする学び。

4. テーマに基づいた研究授業

「主体的・協働的な学びを育む授業」をテーマに、高等部の教員が一人一回の研究授業を設定し、実践した。そして、研究授業のあとに高等部全員で授業研究会を行い、協議を重ねた。
(具体的な内容は事例集参照)

5. 高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイント

「主体的・協働的な学びを育む授業」を行い、授業作りの前提となるポイント、学習活動に関するポイント、教員の支援に関するポイントをまとめた(ポイント資料参照)。高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントを作るにあたり、見えてきた生徒の姿を記す。

1) 主体的な学びの姿

- 自分から黙々と調べて記入する姿
- 題材に対して興味を抱き、意欲的に授業に参加しようとする姿
- 課題に対して、教員が想定していなかった予想や仮説をたてる姿
- 人から認められ、喜びや達成感をもって次の活動へ向かう姿
- 個人目標を設定することで、自分が何をどうがんばるのか考えを広げる姿
- 自分でたてた目標を達成しようと、意欲が向上していく姿
- チームとして勝つために、自分たちで練習を考えたり、具体的な作戦を考え合う姿
- 題材を自分の事として考えることができる姿
- 必然性のある目標設定のもと、学習活動に価値や意味を見出す姿

2) 協働的な学びの姿

- 人の話を聞いて、互いに学びを深める姿
- 話し合いながら、仲間と協力して図表を完成させる姿
- 自分が得た情報を、仲間と共有する姿
- 他人からの評価を受け、自己評価をする姿
- 肯定的な評価を受け、より意欲的に課題に取り組もうとする姿
- 人から期待され、その期待に応えようと仲間とがんばる姿
- 自己評価と教員の評価の違いに対し、教員との話し合いを経て、よりの確に自己評価をする姿

6. 研究協議会での研究授業

1) 生活支援「くらし」について

高等部では平成15年度より生活支援「くらし」の授業を設定している。本校生徒一人ひとりのライフステージ全体から考えると、学校生活から地域生活への橋渡しとなる高等部においては、個に応じた移行を実現するために効果的な学習を進めていく必要がある。移行支援に関する学習は、単に進路先決定という指導だけではなく、高等部段階での学習として本人の生活全体を考慮した学習内容を準備することが求められている。卒業後の生活について、生徒が希望する自分自身にあった生活のスタイルを考え、主体的に自分の生活を選択していくことが、卒業後の生活をより豊かなものとするものとする。卒業後の生活の仕方、さらには自分自身の生き方について具体的な体験を通す中で学習し、個々人にとって必要な情報について考え、自分にあった生活を主体的に選択し経験をする学習が、独自の授業内容を持つものとして独立した授業形態を取ることが必要であると考えた。

生徒達の中には、将来「このまま親と一緒に暮らしていきたい」というものもいるが、「一人暮らしをしたい」「友達と一緒に暮らしたい」という生徒もいる。保護者もいつかは誰かの手にゆだねる時期が来るという現実を、学年が進むにつれて実感するようになる。しかし現実には家庭の中で生徒達は、何かを「してもらって生活」が多く、自分が「主体的にくらしを創出する」ということの重要性は見えにくい現状がある。この学習では、生徒達に自分が将来どのような生活をしていくかのイメージを持たせることもねらっている。このことが、本人の目標の生活における希望を実現させていくために必要である。

上記の理由により、本校では「くらし」の時間を設定している。「くらし」の時間については調

理、被服、住まい、生活知識という4つの分野に分けて学習を行っている。これは教科「家庭」の「内容をどのようにとらえるか」という視点を参考にして考えてきたものである。このことは結果的には生徒たちや保護者の具体的なニーズを把握してきた経過で把握してきたこととも一致した。平成15年度より実践を始めた「くらし、実技編（調理、被服、住まい）」では、技能や技術面の習得が中心的内容となっている。「くらし、生活知識」では生活の主体者は自分であることを意識し、将来の自分なりの生活を考えるために幅広い知識を身につけることを計画した。

・方で、本校では総合学習等の実践より「方法の獲得」ということにも留意して学習を組織してきた。「自分から進んで行く生活」「生活の主体者は自分」ということを十分に意識して学習できるように考えるとともに、そのことを実現できるための方法論もあわせて重視することを考えた。結果以下の点に留意し、授業実践を行うように計画した。

- ・形式、内容、方法等、様々なところで選択する活動を保障、学習できるようにする。
- ・選択した結果は最終的には自分自身が責任を持つということを学習する。
- ・支援が必要な時には積極的に依頼を行って良いのだ、ということを体験、学習する。
- ・支援が必要な時にはどのようにして依頼したら良いのか、分からない時の質問のし方やその方法を学習する。

以上のように「生活への気づき」「方法の獲得」「主体者意識」ということを実現する内容として「くらし」の授業を計画している。

「くらし」の目標は以下のように設定されている。

- 生活に必要な知識と技能を身に付け、今の生活にいかしながら、卒業後の生活への準備を始める。
- 生活の中でできることは自分でやり、必要な場合は援助を受けることを学習し、実践できるようにする。
- 自立した生活に向けての意欲を育み、主体者として生きていく素地を養う。

研究授業くらし「被服」では「高1コレクション—わたしのお気に入り服—」を題材とし、自分のお気に入りの服を選び、みんなに披露し、お互いに評価をし合い、衣服に対する興味・関心を高めることをねらいとする。（資料2参照）

2. くらし「被服」の研究授業

（資料1参照）

IV まとめと今後に向けて

今年度の研究では、高等部生徒の主体者意識を高めると同時に、主体的・協働的な学びを図るため、卒業後の生活への主体者意識の育成を目指した授業実践を重ねてきた。そして、その成果を高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントとしてまとめた。授業作りの前提となるポイントでは、生徒の実態を的確に把握し、生徒にとって必然性がある目標を設定し、生徒が自発的に授業に参加するための手がかりの設定についてまとめた。学習活動に関するポイントでは、生徒が自ら考え判断する機会を設定することと同時に、評価方法の工夫を試みた。教員の支援に関するポイントでは、教員が教える場面と生徒が自分で考える場面のバランスを意識し、生徒の考えが周囲にうまく伝わるような支援の検討を行った。

特別支援学校高等部学習指導要領(2019)にもあるように、これからは、社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視することになる。また、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視し、卒業後の自立と社会参加に向けた充実についても、さらに考えていくことになる。そのために、今年度の研究の全校サブテーマともなっている、幼稚部段階から高等部段階における授業の創造を引き続き実践するとともに、幼児、児童、生徒の学びの連続性を考慮し、各学部間の段階性の更なる検討を行う必要がある。また、本研究で提案した授業実践や授業改善のポイントをもとに、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な内容を組織的に配列していくなど、より一層カリキュラム・マネジメントに取り組んでいくことが次のステップの一つになると考えられる。

(文責 渡邊)

参考文献

東京学芸大学附属特別支援学校(2016)研究紀要 第60号

東京学芸大学附属特別支援学校(2017)研究紀要 第61号

東京学芸大学附属特別支援学校(2018)研究紀要 第62号

文部科学省(2018)特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)

文部科学省(2019)特別支援学校高等部学習指導要領

(資料1)

高等部 生活支援

くらし「被服」学習指導案

日 時：平成31年1月25日（金）10:00～11:00

対 象：高等部1年9名（男子3名、女子6名）

場 所：個別学習室

指導者：末利 容子（MT）、松本 晃（ST1）、

高野 裕美（ST2）

1. 題材名 「高1コレクション」—わたしのお気に入りの服—

2. 題材設定の理由

本校では、学校生活から社会生活への橋渡しとなる高等部段階において、生活支援に関する内容を中心に扱う授業として「くらし」を設定している。「くらし」は、生徒が卒業後の自分の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択する経験を重ねることを目的とし、「調理」「被服」「住まい」「生活知識」という4つの分野から成る。なかでも、実践的な活動を通して技能を習得することに重点を置いた「調理」「被服」「住まい」の3分野を「くらし実践編」と総称し、週1回110分の授業を行っている。そこでは1年間を3期に分け、学年別で各分野を6～7回履修することを3年間繰り返す、学習内容の深まりと定着を図っている。他方、「生活知識」は社会生活に必要な知識を幅広く身に付けることを中心的な内容とし、週1回70分の授業を行っている。

「被服」では「人生の主人公（＝生活の主体者）はわたし（生徒本人）」であるという意識の醸成を目指し、学級集団の実態や生徒および保護者の希望、各人の「個別教育計画」の目標を考慮しながら、集団指導と課題に応じたグループ別指導を組み合わせている。生徒と共有する標語として「すてきで快適な衣生活」を掲げ、原則として1回の授業を前後半に分けて展開している。前半は、衣生活を「考える」活動を学級集団で行い、衣生活に関する思考・関心・意欲を育むことを目指す。後半は課題に応じたグループごとに、衣類の手入れに関する知識・技能を身に付け、衣生活を「つくる」活動を行う。また、全時間を通して、分からないときの質問、困ったときの相談、支援を必要とするときの依頼といった各方法の学習も重視している。

本授業の対象者である高等部1年生9名は学級集団への愛着が高く、仲間から注目されることによって種々の活動への意欲が向上する生徒が多い。仲間とのコミュニケーションを楽しみながら、場に応じた振る舞いや丁寧な言葉遣いができることを目指している。身だしなみに関する意識やファッションへの興味、衣生活への関心の程度は幅が広い集団である。例えば、教員から動作の促しを受けて更衣を完了する生徒や、襟や裾の乱れに自ら気付き身だしなみを整えることの習慣化を図っている生徒、好みの髪型を選び一人で美容院を利用する経験を重ねている生徒がいる。着用する衣服の選択は半数の生徒が自分で行っており、半数の生徒が家族と一緒にいるか、家族が行っている状態である。

以上のような実態を受け、「高1コレクション」という名で「お気に入りの服」を家庭から持参し、紹介し合う題材を設定した。集団の中で自他の衣服に着目し、建設的な相互評価を重ねることで衣生活へ主体的に関わろうとする意欲を培うことをねらう。「お気に入りの服」をより「すてき」に見せようとするなかで、鏡を見て身だしなみを整える力の高まりも期待している。さらに、サインやジェスチャーを含めた表現（語彙）を拡張し、仲間と協働的に学ぶための素地を養いたい。

1年生は1月から「被服」の授業に臨んでおり、これまでの授業において衣服を選ぶ、評価する際の観点（サイズ、色、肌触りなど）を取り上げ、各観点到まつわる形状や感想を表現する語彙を広げている。また、本時に行う「高1コレクション」への導入として、プロのモデルがランウェイを歩く動画を視聴し、ファッションショー（「～コレクション」）とはどのようなものか、モデルは音楽に合わせて歩いていた、ポーズをとっていたりすることを学んだ。そして前時には「高1コレクション」①として、実際に選んだ衣服を4名の生徒が発表し、感想や意見を交流した。本時の指導では、生徒が着こなしを評価し合う際に、良い点をとらえること、改善する場合、どのようにするとよいか、という代案まで出すことができるよう留意する。加えて、他者からの評価を今後の着こなしへ活かすことを促し、衣生活に関する学びを深めたいと考えている。

3. 目標

- 目的や好み等に応じて、様々な衣服があることが分かる。
- 洗濯に関する基本的な知識や技能を身に付ける。
- 家庭における衣生活に関する役割分担を考え、自分の役割を果たそうとする意欲を高める。

4. 指導計画

回	日	前半	後半
1	1月9日	「快適」な衣服の役割（身体の保護、着心地）、家庭での管理	洗濯に関する生徒の実態や課題に応じたグループごとに、衣服のもみ洗い、洗濯機の操作、干し、取り込み、たたみ、収納などを学習する。
2	1月16日	「すてき」な衣服とは（衣服を見る・選ぶときの観点・表現）、家庭での管理分担	
3	1月23日	「～コレクション」とは 「高1コレクション」①	
4	1月25日 （本時）	「高1コレクション」②	

5. 本時の学習

1) 本時の目標

- 「お気に入りの服」を仲間と発表し合い、衣服への関心を高める。
- 衣服を見る・選ぶときの観点について理解を深める。

2) 個人目標

【個人目標☆・手だて○（個別教育計画に関連した目標★・手だて●）】

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段着は自分で選んだり、家族と一緒に選んだりしている。衣服の特徴を捉えていても、発表をためらうことがある。 ・理由をもって衣服の着こなしを考えることができるが、観点が限定的になることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の衣服の気に入っているところを、自信をもって発表できる。 ☆仲間の衣服を複数の観点から評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人が自分の考えをもつことそのものを称賛し、堂々と発表できるようにする。 ○本人が着目していない観点に関して尋ね、具体的な言葉で表現できるようにする。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の種類は大まかに理解しており、複数の選択肢（絵）から、制服や就寝時の服装を判別することができる。普段着は家族が選んでいる。 ・仲間の衣服への関心はあまり感じられないが、色そのものの見分けはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆仲間から評価を受けたものを見たり触ったりできる。 ☆仲間の衣服の色を見分けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が着ている衣服のうち、いま仲間からどの部分について評価を受けたのか、視覚的に理解できるように指し示す。 ○タブレット端末で発表生徒の衣服を拡大し、何色であるか尋ねる。色名を読み上げ、文字と発音と色の合致を促す。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・「回ると裾が広がるところがかわいい」等、自分なりの理由で普段着を選んでいる。前時の「高1コレクション」①で発表した。 ・衣服の細部など注目できる点が多いが、どのようなものでも「かわいい」という言葉を用いて表現する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆衣服の気に入っている点を明らかにし、発表できる。 ☆仲間の衣服について、さまざまな言葉で評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の評価の記録を示し、特に気に入っている点について説明できるようにする。 ○他の生徒から出た言葉を復唱して強調したり、衣服の評価に使用できる言葉を紹介したりする。 	
D	<ul style="list-style-type: none"> ・好みの服装を自覚しながら着こなしを楽しんでいる。発表場面で自信がなくなったり早口になったりすることがある。 ・衣服を見て、着こなし方の案を素早く出すことができる。一面的な評価に留まることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ★<u>衣服を選んだ理由を、ゆつくりと丁寧に発表する。</u> ☆仲間の衣服の良いところを複数見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>聞き取りにくい場合は、相手が聞き取りやすい速さや「です」「ます」を付けて発表することを確認する。</u> ○「他にはどんな部分がすてき？」と複数の評価を発表できるように質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★語尾に「～です」「～ます」を付けて話す。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かすことを好み、意欲や関心の高さは表情に出る。普段着は家族と一緒に選んでいる。 ・授業中は指差しで意思を表出することが多いが「かわいい」等と感想を伝えられることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆笑顔で仲間を選んだ衣服を発表することができる。 ☆仲間の衣服を見て感じたことや気づいたことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リズムカルなBGMを流し、ファッションショーを楽しんだ経験が、衣服への肯定的な認識になるようにする。 ○発表者の衣服と同じ色のカードを使い、カードを仲間へ渡すよう促す。 	

F	<ul style="list-style-type: none"> ・普段着は自分で選んでおり「襟がついていてかっこいいから」「ボタンのあるところが好き」といった形の好みがある。 ・仲間との交流への意欲はあるが、意見を求められた際に何と言ってよいのか分からず、黙り込むことがある。 	<p>☆仲間から評価を受け、新たな衣服の良さに気づく。</p> <p>★<u>仲間の衣服の良いところを発表できる。</u></p>	<p>○本人が気にしていなかった観点について出た意見を大きく取り上げる。</p> <p>●<u>言葉につまんでいるときは、具体的に観点を指定し、発言しやすいようにする。</u></p>	<p>★語尾に「～です」「～ます」を付けて話す。</p>
G	<ul style="list-style-type: none"> ・普段着は自分で準備することができ、着心地で選ぶ傾向がある。前時の「高1コレクション」①で発表した。 ・見たものと同じ色を選ぶことは得意であるが、衣服の色味への興味は薄いようである。授業の中で感じたことを選択肢から選ぶことができる。 	<p>☆自分の衣服の評価を受けた部分を触ることができる。</p> <p>☆仲間の衣服を見て、感じたことを伝える。</p>	<p>○共通のサインを用いて好評価を受けたことが実感できるようにする。</p> <p>○仲間の衣服をタブレット端末で撮影し、気持ちを表すカードとともに提示する。</p>	
H	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で衣服を選択する経験が少なかったが、授業で仲間と衣生活について考えるうちに、自分で衣服を選ぶことへの意欲が高まった。前時の「高1コレクション」①で発表を行った。 ・アイドルが着ていそう、好きな電車の色であるといった、趣味にまつわる観点から衣服を見る傾向がある。 	<p>★<u>前時の評価をふまえ、本時の着こなしを発表する。</u></p> <p>★<u>さまざまな観点から衣服を評価することができる。</u></p>	<p>●<u>自分で衣服を選択する経験の積み重ねが「すてき」な装いにつながることを強調する。</u></p> <p>●<u>「サイズは?」「何柄といえる?」など、本人が意識していない点についてどんなことが言えるか尋ねる。</u></p>	<p>★<u>場面に応じた言葉遣いで話す。</u></p>
I	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーティなパンツスタイルを「動きやすいから」と好んで選ぶことが多かったが、前時の「高1コレクション」①で発表した。被服の授業を通しておしゃれへの興味が高まってきた ・休み時間には最近購入した衣服について自ら楽しそうに話す。全体の場で自分の意見を発表することをためらうことがある。 	<p>☆前時の評価をふまえ、自分の衣服の気に入っている点を発表する。</p> <p>☆仲間の衣服を多様な観点から評価し、伝える。</p>	<p>○前時の評価の記録を示し、特に気に入っている点について自信をもって発表できるようにする。</p> <p>○本人が着目していない部分があれば、ホワイトボードに提示している衣服を見るときのポイントを参照するよう言葉がけをする。</p>	

3) 準備物

ホワイトボード、ボードペン、スピーカー、タブレット端末、カーペット、評価記録用紙、ペン、ワークシート「お気に入りの服紹介」、カード「色」「気持ち」

4) 展開

時間	学習活動	指導内容	留意点
3分	<p>○授業開始の挨拶をする。</p> <p>○本時の予定を確認する。</p>	<p>○相手を見て挨拶ができる。</p> <p>○本時の活動内容がわかり、見通しをもって活動に参加する。</p>	<p>○MT は生徒全員と視線を合わせ、「お願いします。」という口の動き、発声が明瞭であるようにする。</p> <p>○ST1 は G、ST2 は B の横で一度静止し、MT の方を見て挨拶をした上で着席ができるよう、姿勢とタイミングの模範を示す。</p> <p>○MT は生徒が選んだ服を見ることが楽しみであることを伝え、他者から期待されることで生徒の表現意欲が高まるようにする。</p> <p>○前時に示した衣服を見る・選ぶときのポイント（色、柄、サイズ、肌触り）をホワイトボードに提示し確認する。</p>
10		<p>○自分の衣服の気に入っている点を発表する。</p>	<p>○前時に発表した 4 名の生徒はホワイトボードの前に 1 列に並び、H→I→G→C の順で振り返る。</p> <p>○G が並ぶ場所には椅子を置いておく。</p> <p>○ST1、ST2 は学級全員が共同注意をできるように、発表している生徒への注目を促す。</p> <p>○相互評価をふまえて、自分の考えを発表できるようにする。</p>
40分	<p>○「高 1 コレクション」②を行う。</p> <p>【発表者の動き】</p> <p>○カーペット上を歩く。</p> <p>○台の上でポーズをとる。</p> <p>○選んだ衣服の気に入っている点を発表する。</p>	<p>○発表時の動き方がわかる。</p> <p>○「お気に入りの服」を仲間に見せる。</p>	<p>○MT がカーペット上を歩き、演示する。</p> <p>○A→F→B→E→D の順に発表する。</p> <p>○MT は発表者が台に上がりポーズをとった後に、衣服の気に入っている点を書き出しているワークシートを渡す。</p> <p>○発表が聞き取りにくい場合は、大きな声でゆっくり発表するよう伝える。</p> <p>○B、E が発表するときは、MT が単語を先導したり、気に入っている点を読み上げたりする。</p>

		○仲間の衣服を見て、評価を伝える。	○MT は「他に～さんの服のすてきな点に気づいた人はいますか。」と発問し、仲間の衣服の良い点を挙げられるようにする。 ○ST1 はタブレット端末と気持ちを表すカードを提示する。 ○ST2 はタブレット端末と色カードを用いて B、E が発表者の衣服の色に着目できるようにする。 ○B、E、G が選んだカードを発表者に渡すことを通して仲間と交流するおもしろさを感じられるようにする。 ○発表内容に広がりが出るようにホワイトボードに提示している衣服を見るときポイントを参照するよう促す。 ○後ろ向きな評価が挙がった際は、建設的な発表となるよう、具体的にどうするとよいと思うのか代案まで尋ねる。
7分	○本時のまとめをする。 ○授業終了の挨拶をする。	○本時の学習を振り返り、家庭で衣服を選ぶことに意欲がもてる。 ○相手を見て挨拶ができる。	○9名の「お気に入りの服」はそれぞれ異なり、どれも良かったことを確認し「すてき」には多様性があることを実感できるようにする。 ○衣服を見る・選ぶときのポイントを確認し、今後も自分で衣服を選んでみるようすすめる。 ○「すてき」な衣服を長く「快適」に着るためには家庭での衣服の管理が必要であることを話題にする。 ○MT は顔を挙げ、背筋を伸ばして挨拶するよう声を掛ける。 ○礼を終えるまで集中を切らさないよう、ST は生徒の横で姿勢とタイミングの模範を示す。

5) 配置図

(略)

6) 評価

(1) 個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	コメント
A	☆自分の衣服の気に入っているところを自信をもって発表できる。 ☆仲間の衣服を複数の観点から評価することができる。	○ ○	
B	☆仲間から評価を受けたものを見たり触ったりできる。 ☆仲間の衣服の色を見分けることができる。	○ ○	
C	☆衣服の気に入っている点を明らかにし、発表できる。 ☆仲間の衣服について、さまざまな言葉で評価することができる。	○ ○	

D	★衣服を選んだ理由を、ゆっくりと丁寧に発表する。 ☆仲間の衣服の良いところを複数見つけることができる。	○ △	人前での発表に緊張し、挙手して発表することが難しかった。
E	☆笑顔で仲間に選んだ衣服を発表することができる。 ☆仲間の衣服を見て感じたことや気づいたことを伝える。	○ ○	
F	☆仲間から評価を受け、新たな衣服の良さに気づく。 ★仲間の衣服の良いところを発表できる。	○ ○	
G	☆自分の衣服の評価を受けた部分を触ることができる。 ☆仲間の衣服を見て、感じたことを伝える。	○ △	発表時間が長くなり、仲間全員の服装を見ることができなかった。
H	★前時の評価をふまえ、本時の着こなしを発表する。 ★さまざまな観点から衣服を評価することができる。	○ ○	
I	☆前時の評価をふまえ、自分の衣服の気に入っている点を発表する。 ☆仲間の衣服を多様な観点から評価し、伝える。	○ ○	

評価の目的 ・授業における個人の目標が達成できたかを評価する。
・次時の個人の目標設定の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(2) 授業の評価

項目	評価内容	評価	コメント
目標	1. 本時の目標は達成できたか。	○	
	2. 本時の目標は適切であったか。	○	
活動	3. 本時の目標にあった学習活動であったか。	○	
手だて	4. 教材が適切であったか。	○	
	5. 教材の提示方法は適切であったか。	○	
	6. 教材の使い方は適切であったか。	○	
	7. 教示方法は適切であったか。(わかりやすさ、口調など)	○	
	8. 子どもへの援助方法は適切であったか。	△	緊張しやすい生徒への発表の支援には検討の余地がある。
	9. 集団の統制は適切であったか。	○	
	10. 子どもの反応の捉え方は適切であったか。	○	
T T	11. 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○	
学習環境	12. 本時の時間配分は適切であったか。	○	
	13. 場面の設定は適切であったか。	○	

評価の目的 ・本授業を評価することによって、次の授業の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(3) 個別教育計画運用の評価

生徒	個別教育計画からの目標	個人目標達成度評価	場面の適切性評価	手立ての適切性評価	次時への課題	個別教育計画の課題
D	語尾に「～です」「～ます」を付けて話す。	△	△	△	人前で話すことに自信が持てるようにする。	人前で話す場面を意図的に設定し、成功体験を重ねる。
F	語尾に「～です」「～ます」を付けて話す。	○	○	○		
H	場面に応じた言葉遣いで話す。	○	○	○		

(4) 指導計画の評価

単元名：「高1コレクション—わたしのお気に入りの服—」 総時間数：4時間 授業日：1月25日（金）		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して
一斉指導の形態をとった。個別の支援を必要とする生徒はいるものの、内容との関係で考えると一斉指導が妥当である。	服を選ぶポイント（色、デザイン等）を指導した後に、自分の服を紹介することで、本人の気に入っているポイントを共有しやすくなった。	服の発表については、3時間設定とした。集団の実態を考慮すると妥当であった。

(資料2)

くらし「被服」分野 学習の構成

	衣生活に関する思考、関心、意欲	衣生活に関する知識、技能
	<div>生徒向けキャッチフレーズ</div> <p>「すてきで快適な衣生活を考えよう」</p>	<div>生徒向けキャッチフレーズ</div> <p>「すてきで快適な衣生活をつくろう」</p>
ステップ1	<div>テーマ「衣服の役割」</div> <ul style="list-style-type: none">○ 「お気に入りの服」紹介 (級友と共有)○ 衣服の役割<ul style="list-style-type: none">・ 身体のプロテクト・ 着心地○ 家庭での洗濯の現状 (いつ、誰が、どのように)○ 家庭で自分ができること○ 衣類の購入 (下着)	<div>テーマ「洗濯の基本」</div> <ul style="list-style-type: none">○ 洗濯の効果○ 洗濯の仕方<ul style="list-style-type: none">・ もみ洗いの仕方・ 洗濯機の使い方・ 干し方・ たたみ方・ 収納の仕方○ 洗濯用洗剤に関すること
ステップ2	<div>テーマ「自分らしいファッション」</div> <ul style="list-style-type: none">○ 自分に似合う服や着たい服<ul style="list-style-type: none">・ ファッションの流行・ 服のコーディネート・ 素材や製法に関すること○ 家庭での仕事の役割分担○ 衣類の購入 (カジュアルウェア)	<div>テーマ「衣類の快適な管理」</div> <ul style="list-style-type: none">○ 洗濯機の色々な機能○ 衣類の取り扱い表示に関すること○ 靴洗い○ アイロンの使い方○ 衣服の修繕 (ボタンつけ、ひも・ゴム通し)
ステップ3	<div>テーマ「社会人としての衣生活」</div> <ul style="list-style-type: none">○ TPOに応じた服装○ 自分に合った衣類の管理の仕方○ 一週間の着回しと洗濯プラン○ 衣類の購入 (社会人として必要なアイテム：Yシャツ、ネクタイ、ブラウス、アクセサリ等)	<div>テーマ「知っておきたい被服のこと」</div> <ul style="list-style-type: none">○ おしゃれ着のアイロンがけ○ しみ抜き○ 革製品等の手入れ○ 衣料用消臭剤や防虫剤等に関すること○ 衣類の手入れや修繕の専門店の利用○ 衣服の修繕 (裾上げ、ほつれの補修等)○ 生活に必要な小物作り